

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F101310100203	設置等組織名	情報科学部（情報科学科）
大学名	北海道科学大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	北海道	事業計画名	学部（情報科学部情報科学科）の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	①令和4年11月 北海道科学大学将来構想プランの策定 ②令和5年4月 教員と事務職員から構成される改組準備室を発足 ③令和5年4月 外部アドバイザーとの委託契約 ④令和5年4月 広報映像・グラフィック制作開始 ⑤令和5年5月 複数の企業等と設置構想に関する事前協議 ⑥令和5年9月 広報チラシ作成 ⑦令和5年9月 リーフレット作成、入学希望調査、採用意向調査の実施 ⑧令和6年3月 TVCM、WEBサイト作成 ⑨令和6年4月 文部科学省大学設置室へ届出（他学部他学科の収容定員変更含む）	①令和4年11月 北海道科学大学将来構想プランの策定 ②令和5年4月 教員と事務職員から構成される改組準備室を発足 ③令和5年4月 外部アドバイザーとの委託契約 ④令和5年4月 広報映像・グラフィック制作開始 ⑤令和5年5月 複数の企業等と設置構想に関する事前協議 ⑥令和5年9月 広報チラシ作成 ⑦令和5年9月 リーフレット作成、入学希望調査、採用意向調査の実施 ⑧令和6年3月 TVCM、WEBサイト作成 ⑨令和6年4月 文部科学省大学設置室へ届出（他学部他学科の収容定員変更含む）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 ⑨については、計画どおりに情報科学部情報科学科のカリキュラムに組み込み、令和6年4月に学部の設置届出済みです。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和6年4月 文部科学省大学設置室へ届出予定	令和6年4月情報科学部情報科学科 学部の設置届出		
フェーズ1 後倒し			R6年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	①令和6年4月 既存実験棟の改修工事開始 ②令和6年6月 講義室の改修工事開始 ③令和6年10月 実験・演習環境（ハードウェア・ソフトウェア・クラウド）の整備 ④令和6年10月 実験テーマの拡充に向けた準備 ⑤令和6年10月 学習支援教材準備	①未実施 ②未実施 ③令和6年12月 実験・演習環境（ハードウェア・ソフトウェア・クラウド）の整備 ④令和6年12月 実験テーマの拡充に向けた準備 ⑤令和6年12月 学習支援教材準備	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 ①②については、既存の実験室、講義室で支障がないことがわかったため、実施しません。
開設 又は定員増	令和7年4月 情報科学部情報科学科開設予定（入学定員100人、編入学定員0名、学位 学士（工学））	令和7年4月 情報科学部情報科学科開設（入学定員100人、編入学定員0名、学位 学士（工学））		
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	①令和7年4月 情報科学部情報科学科設置 ②令和7-10年4月 新入生学力調査の実施（APの確認） ③令和7-10年5月 社会人基礎力チェックのためのPROGテストの実施（1年次と3年次で経年による成長変化） ④令和7年4月 広報映像・グラフィック制作、TVCM、WEBサイト作成、7～12月 TVCM、WEB・SNS広告実施 ⑤令和7年9月 情報科学部開設記念シンポジウム開催 ⑥令和7年7-12月 新聞広告掲出 ⑦令和7-10年9月 満足度や能力伸長を図るための学生生活アンケートの実施 ⑧令和8-11年3月 DPの達成度を評価するための教育目的達成度調査の実施 ⑨令和7-10年 教育効果検証・改善		R7年度自己評価	リストから選択してください。
			R8年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は 学部等の廃止	令和5年4月保健医療学部義肢装具学科募集停止の報告（入学定員30人、編入学定員0名、学位 学士（義肢装具学）） 令和7年4月保健医療学部義肢装具学科募集停止の予定（同上） 令和6年4月工学部情報工学科募集停止の報告（入学定員90人、編入学定員0名、学位 学士（工学）） 令和7年4月工学部情報工学科募集停止の予定（同上）	令和5年4月保健医療学部義肢装具学科募集停止の報告（入学定員30人、編入学定員0名、学位 学士（義肢装具学）） 令和7年4月保健医療学部義肢装具学科募集停止（同上） 令和6年5月工学部情報工学科募集停止の報告（入学定員90人、編入学定員0名、学位 学士（工学）） 令和7年4月工学部情報工学科募集停止（同上）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北海道科学大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。			
	確認を受けている			☒ チェック
	確認の対象に該当しない			☐ チェック
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）			
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った			☒ チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北海道科学大学
-------------	-------	-----	---------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。□ 計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できおり、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

A：連携を通じた教育体制の整備と実施（連携開設科目等に限らない）

☒ チェック

☐ チェック

☐ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学学生の基礎能力を育成するHUSスタンダード科目では、課題発見・解決のための実践的な能力を身に付けることを目的とした「課題発見解決法Ⅱ（地域課題）」を開設する。具体的には、提示された「社会・地域課題」に対して状況把握及び問題発見について、現実的かつ多面的な視点から調査分析と思考・議論を段階的に重ねた上で、実行可能な解決方法を合意形成により見出し、プレゼンテーションまでの一連の過程を体験的に学習することで課題解決力を醸成する。また、当該科目は、情報科学部だけでなく複数の学部・学科からなるグループ内で地域課題に取り組むことを通して、他者を尊重し多様な視点から物事を捉える姿勢やチームワークとリーダーシップについても実践的に学ぶことができる。AI・データサイエンス科目（「情報処理法」「統計分析法」「データサイエンス」「AI入門」）を中心に、道内経済団体の協力の下、地元企業から実データ・実課題の提供を受け、企業が抱える問題等を授業に組み込み、課題解決するPBL等を想定している。さらに、学科専門教育科目である「情報科学プロジェクトⅠ・Ⅱ」では、少人数のグループに分かれ学生主体でプロジェクトを遂行する科目とする予定である。	令和５年度中に全学部全学科のカリキュラムを見直し、令和６年度から新カリキュラムが開始されている。HUSスタンダード科目は全学共通科目として開設されており、令和７年度に新設される情報科学部情報科学科においても設定されている。「課題発見解決法Ⅱ（地域課題）」は２年前期に開設されており、情報科学部では令和８年度に開講する予定である。北海道中小企業家同友会及び自治体などと連携する予定で、現在調整中である。「情報処理法」及び「統計分析法」は１年前期（令和７年度）に、「データサイエンス」は１年後期（令和７年度）に、「AI入門」は２年前期（令和８年度）に開講予定であり、令和４年度に大学として、生活協同組合コープさっぽろ、北海道中央バス株式会社及び北海道物流開発株式会社と覚書を交わしている。「情報科学プロジェクトⅠ」は３年前期に、「情報科学プロジェクトⅡ」は３年後期に開設されており、令和９年度に開講する予定で準備を進めている。以上のとおり、いずれも計画どおりに情報科学部情報科学科のカリキュラムに組み込み、令和６年４月に学部の設置届出済みである。	

B：多様な入学者の確保に向けた取組

☒ チェック

☐ チェック

☒ チェック

☐ チェック

☐ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における科目の見直しについては、令和7年度入学者から平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した入学者選抜を行い教科・科目の変更を計画しており、一般選抜において「情報」の科目を追加、一般後期では記述式や面接試験を課す総合評価型の選抜制度を予定しており、多様な入学者の受け入れを拡充する計画をしている。地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、令和4年度において出前講義33校3,332名（高校30校3,005名、中学校3校327名）、大学見学22校1,081名（高校15校735名、中学校7校346名）の実施実績があり、低学年からさまざまな分野の学問に触れる機会を提供しており、支援期間中も同規模の実施を想定している。	入学者選抜における科目の見直しについては、予定通り平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した教科・科目の変更、一般選抜において「情報」の科目を追加、一般後期では記述式や面接試験を課す総合評価型の選抜制度の実施に向け準備を進めている。このことについてはホームページにて令和4年12月及び令和5年5月に事前告知をしており、令和6年6月中旬に正式に募集要項の公開を予定している。地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、令和5年度の実績として、出前講義46校3,045名（高校30校1,550名、中学校7校824名、小学校9校671名）、大学見学21校631名（高校10校292名、中学校11校339名）の実施をしており、令和6年度についても継続して同規模程度の実施を想定している。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北海道科学大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北海道科学大学
-------------	-------	-----	---------

⑥	特定成長分野に係る学部を設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った ☒ チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北海道科学大学
-------------	-------	-----	---------

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文科科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。□ 計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

☒ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

☐ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

☐ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学学生の基礎能力を育成するHUSスタンダード科目では、課題発見・解決のための実践的な能力を身に付けることを目的とした「課題発見解決法Ⅱ（地域課題）」を開設する。具体的には、提示された「社会・地域課題」に対して状況把握及び問題発見について、現実的かつ多面的な視点から調査分析と思考・議論を段階的に重ねた上で、実行可能な解決方法を合意形成により見出し、プレゼンテーションまでの一連の過程を体験的に学習することで課題解決力を醸成する。また、当該科目は、情報科学部だけでなく複数の学部・学科からなるグループ内で地域課題に取り組むことを通じて、他者を尊重し多様な視点から物事を捉える姿勢やチームワークとリーダーシップについても実践的に学ぶことができる。AI・データサイエンス系科目（「情報処理法」「統計分析法」「データサイエンス」「AI入門」）を中心に、道内経済団体の協力の下、地元企業から実データ・実課題の提供を受け、企業が抱える問題等を授業に組み込み、課題解決するPBL等を想定している。さらに、学科専門教育科目である「情報科学プロジェクトⅠ・Ⅱ」では、少人数のグループに分かれ学生主体でプロジェクトを遂行する科目とする予定である。	令和５年度中に全学部全学科のカリキュラムを見直し、令和６年度から新カリキュラムが開始されている。HUSスタンダード科目は全学共通科目として開設されており、今年度到新設された情報科学部情報科学科においても設定されている。「課題発見解決法Ⅱ（地域課題）」は２年前期に開設されており、情報科学部では令和８年度から開講する予定である。北海道中小企業家同友会及び自治体などと連携する準備が整っている。 1年前期開設の「情報処理法」及び「統計分析法」は今年度から計画どおり開講されている。「データサイエンス」は今年度１年後期から、「AI入門」は２年前期（令和８年度）から開講予定であり、令和４年度に大学として、生活協同組合コープさっぽろ、北海道中央バス株式会社及び北海道物流開発株式会社と授業への協力について覚書を交わしている。また、本学も所属する北海道デジタル人材育成推進協議会の事業として、実務家教員の派遣を受け、実社会での知見を当該分野の教育に反映させる準備を整えている。 「情報科学プロジェクトⅠ」は３年前期に、「情報科学プロジェクトⅡ」は３年後期に開設されており、令和９年度から開講する予定で準備を進めている。 以上のとおり、いずれも計画どおりに進んでいる。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

☒ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

☐ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

☒ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

☐ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

☐ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における科目の見直しについては、令和7年度入学者から平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した入学者選抜を行い教科・科目の変更を計画しており、一般選抜において「情報」の科目を追加、一般後期では記述式や面接試験を課す総合評価型の選抜制度を予定しており、多様な入学者の受け入れを拡充する計画をしている。地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、令和4年度において出前講義33校3,332名（高校30校3,005名、中学校3校327名）、大学見学22校1,081名（高校15校735名、中学校7校346名）の実施実績があり、低学年からさまざまな分野の学問に触れる機会を提供しており、支援期間中も同規模の実施を想定している。	入学者選抜における科目の見直しについては、令和7年度入学生の入学試験で平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した教科・科目の変更を行い、多様な入学者の受け入れを拡充する計画を実行した。具体的には、一般選抜（前期）で「情報」の科目を追加し、一般選抜（後期）で記述式や面接試験を課す総合評価型の選抜試験を実施した。地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、令和6年度の実績として、出前講義43校2,073名（高校31校1,470名、中学校5校217名、小学校7校386名）、大学見学28校1,102名（高校16校564名、中学校12校538名）の実施をしており、低学年からさまざまな分野の学問に触れる機会を提供した。令和7年度についても同規模の実施を継続予定である。	

大学名	北海道科学大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	992	992	992																
		入学者数	人	1001	1003	1063																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	992	992	992																
		入学者数(B)	人	1,001	1,003	1,063																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	1.01	1.07																
	収容定員等	収容定員(C)	人	4328	4328	4328																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	4606	4476	4482																
		編入学者数	人	8	6	7																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.03	1.04																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定		開設			完成年度								
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		144,217	177,395	135,873	159,917	196,179	197,046	233,538												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	160,510
本事業による助成金の額(F)	千円	89,438
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	162,746

特記事項

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況及び3.大学（学士課程）の状況の収容定員等の「編入学定員」の「0」は若干名を意味しています。
